

2024年5月24日発行

## Contents

- 1) 学会からのお知らせ
- 2) 外部連携団体からのお知らせ
- 3) 健康心理学コラム vol. 137 「心理学研究に生成AIは活用できる？」  
浦田 悠 (大阪大学)

### 1) 学会からのお知らせ (<https://kenkoshimri.jp/>)

■日本健康心理学会第37回大会 (11月23~24日@別府大学) のお知らせ (vol.4) (日本健康心理学会第37回大会準備委員会より)

1. 大会 HP では、随時お知らせを更新しますので、ご確認ください。
2. 一般演題 (ポスターのみ) と自主シンポジウム受付 (変更になりました) について

5月下旬から6月末日、HPの演題登録・採択通知のバナーからエントリーください。

3. 大会のポスター

チラシダウンロードのバナーに複数のポスターを置いています。色々などところへの広報にご協力ください。

■ヨーロッパ健康心理学会 Practical Health Psychology blog (PHPB, 実践健康心理学ブログ) の4月記事のお知らせ (国際委員会より)

“Stop being an ostrich!” の日本語記事「ダチョウになるのはやめよう！」が掲載されました。

下記 URL よりご覧ください。

<https://practicalhealthpsychology.com/ja/2020/05/stop-being-an-ostrich-the-benefits-of-helping-people-to-monitor-their-progress/>

※アクセスの際は、URL 全てをコピーしアドレスバーへペーストのうえご覧ください。

※ブラウザによっては開けない場合があります。その際にはお手数ですが、別のブラウザにてお試しください。

■令和5年度公認心理師実習演習担当教員及び実習指導者養成講習会実施概要レポートのお知らせ (学会事務局より)

国立精神・神経医療研究センター病院が実施概要等をレポートとしてまとめております。

下記 URL よりご覧ください。

[https://www.ncnp.go.jp/hospital/patient/rinshoshimri/rinshoshimri\\_blog20240422.html](https://www.ncnp.go.jp/hospital/patient/rinshoshimri/rinshoshimri_blog20240422.html)

### 2) 外部連携団体からのお知らせ

■第46回日本内観学会大会のご案内 (日本心理医療諸学会連合より)

会期: 2024年7月6日 (土), 7日 (日)

会場: 東京国際交流会館プラザ平成 (東京都江東区青海 2-2-1)

テーマ: こころの傷つきからの回復と内観法・内観療法

大会長: 河合啓介

<https://sites.google.com/view/naikan2024/>

■第19回心理学検定のご案内 (日本心理学諸学会連合より)

試験期間: 2024年7月12日 (金) ~ 8月31日 (土)

受験予約開始: 2024年5月14日 (火) ~

割引受験チケット・団体申込期間: 2024年5月7日 (火) ~ 6月30日 (日)

<https://jupaken.jp/>

### 3) 健康心理学コラム Vol. 137

「心理学研究に生成AIは活用できる？」

浦田 悠 (大阪大学)

2022年11月にOpenAI社のChatGPTが発表されて以降、学术界においても、生成AIに対してどのように向き合うかについての議論が続いています。私が所属する大阪大学でも2024年3月~4月にアンケートが実施され、使用経験ありが64.9%、そのうち研究利用が63.1%に上っており、すでに多くの先生方が研究でも活用されているようです (浦田他, 2024)。私自身も普段の研究や教育で生成AIを日常的に活用するようになり、様々な可能性や課題を感じています。

心理学の研究を進める上でも、例えば、研究のアイデア出し、文献の検索や翻訳・要約、分析方法の検討、心理尺度の項目案・翻訳案の作成、原稿の校閲、研究報告書案の作成等々、様々な場面で活用できそうです。単純に「〇〇についての先行研究を紹介してください」と尋ねると、実在しない文献が出てくるという、いわゆるハルシネーションがよく起こりますが、ConsensusなどのAI論文検索サービスを組み合わせることで、それも回避することができます。調査結果の分析や結果の考察などについても、生成AIと対話することで色々なアイデアを得られると感じています。ただし、統計的な説明に明らかな誤りがあったり、表面的な考察しかされなかったりすることもしばしばあるため、利用する側の知識や批判的思考が試される気もしています。今後も、生成AIの進化を追いながら、心理学研究における利活用を模索していきたいと思っています。

引用文献

浦田 悠他 (2024). 高等教育における生成AIの活用 情報処理, 65 (7), e8-e13.

-----  
日本健康心理学会広報委員会

<http://jahp-public.blogspot.jp/>

メールマガジンの配信停止、アドレス変更は下記アドレスまで

日本健康心理学会事務局 <[jahp@pac.ne.jp](mailto:jahp@pac.ne.jp)>

メールマガジンへのご意見・ご感想は下記アドレスまで

広報委員会 <[jahp@pac.ne.jp](mailto:jahp@pac.ne.jp)>

過去のメールマガジンは、こちらからご覧いただけます

<https://kenkoshimri.jp/health/health1.html#mailmaglist>